

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>大学での研究と企業での研究の違いを知ることができた。例えば、大学では原理原則を100%追い求めることができるが、企業ではお客様の納期のために6割までの研究でいいというような内容である。修士卒業後の進路について迷っているので大変参考になった。</p>	
<p>現在、私が行っている研究が、将来、社会の役に立つこと・活かされることが本当にあるのだろうかという疑問に思っていることはあったが、今回、大学での研究は個人の基礎能力を高めているというお話を聞いて、この研究がどんな役に立つのかを今から考えるよりも、社会に出て活躍するための自己研鑽のつもりで励んでいこうと思った。さらに、大学にいるうちから様々な物事、当たり前だと思っていることを深掘りして、原理から考えるということは日々研究室で教授から言われていることではあったが、改めて強く意識して、これからの大学院の2年間を過ごしていこうと思った。</p>	
<p>今回の講義で、発言すること、人の前に出ることが最初の一步だと気付かされた。黙ったままでは他の人と差が生まれないと感じた。</p>	
<p>本日の講義は自分の将来のための仕事のキャリアをどうするかというものでした。新潟大学出身の方ということ非常に親近感のある方でした。話している内容で特に印象に残ったのは大学は専門的な知識を突き詰めて理論をどれだけ深く追求するかが大切であるという話です。企業では大学での知識は直接は関係ないことが多いかもしれないけど大学で身につけた学ぶ姿勢が大事だということで、自分も大学院生として学び続ける姿勢を身につけようと思いました。</p>	
<p>B2B企業の魅力についてよく分かった。今までこのような企業についてはよく分からなかったが、興味を持つようになり、就活でインターン等に申し込んで見ようと思った。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>私は生物学の中でも生態学を専攻しているため、化学業界は専門から遠いイメージを持っていましたが、統合化学企業の特徴はつくっているものの幅広さにあり、そのため、どんな分野の人でも活躍できると聞き、驚きました。企業の中にも様々な分野を統合させるための部門があると聞き、幅広い分野を統合させることで新しい価値を創出するという現代の企業の開発について知見を深めることができました。大学の研究は知識を創出することを目的として科学を探究しますが、企業は顧客の利益を追求し、科学的な真理に届かなくても研究を中断すると知りました。企業では、製品の不具合に対する早急な品質の向上が必要不可欠で、その原因を特定し、仮説を立て、課題を解決していく過程で大学での研究活動が役に立つと知りました。今現在の研究に取り組みながら、自身が何を目指していきたいのか考えたいです。</p>	
<p>ものづくりにおいてお客様が求めているのは品質であり、品質を良くするために必要なものは大学で勉強しているような技術であるということが分かりました。私の仕事の目的は顧客価値創出型の考え方であったので企業で生かせるように現在勉強している内容をもっと深く理解できるように頑張りたいと思います。また、黒鉛電極というものを全く知らなかったのでどうゆうものなのかを知ることが出来てよかったです。</p>	
<p>黒鉛電極の製造過程においてあらゆる分野のエキスパートの方々の知識のすり合わせが必要になると思うのですが、それは技術者間でのみ行われるものなのでしょうか？</p>	<p>製造工程の改善に関して言えば、技術者中心ですが、生産管理、経理等の人たちが入ることもあります。</p>
<p>品質管理などにおけるいろいろな観点を学べた。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>お話を聞いて、大学にいるうちにクリティカルシンキング、ロジカルシンキングを鍛えたいと思いました。就職してからは基礎力を鍛える時間が無くなってしまわれるので、専門知識を追求していくことで社会に出た時により働きやすくなるようにしたいと思いました。また、企業の研究開発の目的は顧客価値創出であり、お客様のためということを再認識しました。私は人のためになる仕事に就きたいと思っているため、大学で学んだことを忘れずに企業就職する選択肢を重視していきたいと思いました。質問なのですが、就職してからはどのような方法で勉強していますか？また、特に勉強が大変だった分野はありますか？</p>	<p>技術分野に関しては、専門書を読んで勉強することが多いです。特に大変だった分野は技術ではない分野で全くの専門外のファイナンスという分野ですが、これはビジネススクールに通って勉強しました。企業では技術分野以外の知識を身に付ける必要があることもあります。</p>
<p>今回は昭和電工株式会社の方の講義を聴講し、普段聞くことはできない貴重なお話であり、学ぶべきことが多くありました。大学と企業の研究活動目的について明確な違いを教えていただき、納得する部分が多くありました。昭和電工様が取り扱っている黒鉛電極についてのお話を聞き、ここ数年での技術の進歩を実感しました。実際に社会人として企業で働いてらっしゃる方はビジョンがはっきりとしており、自分自身もはっきりと将来を見据えて行動していくことが大切であると思いました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>講義ありがとうございました。何度か講義の中でロジカルシンキングの本について紹介があったように、やはり社会で活躍する（対象に利益をもたらす取り組みをする）上で大事なのは考える力であるということを感じました。そしてその力を鍛えるためには大学院での研究がとても有効なツールであり、研究に取り組むことで考える力を身につければ、将来的に研究分野に関わらず幅広く活躍ができるようになるという話は今の研究活動に対するモチベーションになりました。紹介されていた本について読んでみようと思います。</p>	
<p>課題を解決するための考え方やプロセスを具体的な例を用いて説明していただき、自分の研究にも当てはめて考えることができた。また海外製品との比較を行い、良い部分についてはそれで終わらせることなくなぜ優れた製品なのかをまたさらに分析しているとのことで、自分も結果に満足することなく更に深掘りしていこうと思った。</p>	
<p>大学と企業の違いは目的と対象の範囲、利益になるかどうかにある。大学は知的創出、科学的に新規な物質や現象を求める。一方、企業は顧客価値創出、事業に繋がる新製品や新技術を求める。また、企業は異分野と協力して組織で行う。開発のための期限は市場が決める。品質は事業経営の根幹である。モノづくりの事業において市場の要求に答えることが出来るのは研究開発も含む技術である。仮説と検証を用いて目標達成を目指すのは、大学も企業も同じ。ただし、企業では理論が6割程度でも研究開発を終了することが場合もある。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>企業研究と大学での研究は自分のやりたい方向性によって選択していく必要があるのかなと感じました。企業さんの研究部の場合は深掘りしたくても、できない可能性があることを知り、企業研究の中でよく調べていきたいと思います。研究分野でも解析のモデルの中に含まれる式がどういう理論の下で成り立つのか時間がある今やるべきことだと思うので周りを巻き込みながらやっていきたいと思います。</p>	
<p>新潟大学出身の先輩ということもあるのか普段よりも内容が興味深いものが多くあったように感じました。特に今就職活動をしている中で、具体的なキャリアのお話を聞くことでたくさんの刺激を受けた。また、企業の開発、研究には色々な分野の人が協力して一つの製品を作っていることを知り、コミュニケーション能力が必要不可欠だと感じた。技術者は対物の仕事だと思われがちであるがそうではなく、対人関係も重要であると思った。さらに企業と大学の研究の違いというのを聞いて、今大学で行っている研究が無意味だということではなく、大学での研究を通して学んだことをどのように生かすのかというビジョンが明確になったように感じた。</p>	
<p>新潟大学のOBの方の授業であったので、非常に身近な話に感じた。大学での研究は直接仕事には結びつかなくても、研究の過程で得る原理原則を突き詰める力が仕事に生きてくることがわかった。このようなことを意識して、残りの研究活動を行いたい。</p>	
<p>化学工学の専門化学工学の利益率が高いことを初めて学んだ。また、品質は事業の根幹であり、品質を支えるのは技術者であるということを知り、今やっている研究を真剣に取り組むことで将来役に立つ人材になりたいと思う。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>発想力も大切であるが、それに見合う技術もなければ開発はできないということを学んだ。それこそ一合一会で、チャンスは一度きりしかないので自分から率先して物事に対して取り組む姿勢をこれから大切にしていこう。</p>	
<p>自分が今行っている研究テーマがそのまま仕事に対してイコール関係になるわけではなく、その都度必要な技術を取り入れることが大切だとわかりました。特に大学と企業では目的が異なること、企業では顧客の価値を創出することが優先であるため、原理原則を求めるのは場合によって100%ではなくともよいというところが印象に残りました。具体例から、仮説・検証の繰り返しとその背景に何があるのかを見極められる技術の導入が必要だと理解できました。</p>	
<p>大学での研究生活等を通じた「深く考える」といった思考が、社会にでてからの問題解決に大きく役立つことが分かった。また、「学問としての専門がこれだから」といった思考で将来の職業選択の幅を狭める必要は全くないことがわかった。</p>	
<p>AAA測定などの具体的な話を組み合わせながら、大学の研究における「仮説→調査・実験→解析・考察」の一連の課題解決プロセスが、企業における課題解決プロセスと同じという話が印象的でした。また、前述した話を聞いたことで、大学院の研究の中で、一連の課題解決プロセスを実行していくことは、学生にとって必須条件であることを認識し、今後は常にロジカルな思考を使いながら、日々の研究を進めていきたいと考えました。今やっている研究を全力でやっていこうと思います。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>新潟大学のOBであり、ありのままということで学部・修士時代はあまり学業に打ち込んでいなかったというお話を最初にさせていただいて、あまり身構えずにお話を聞くことができました。また、企業と大学の研究の違いや、昭和電工での研究例など、為になり、なかなか聞けない話で興味深かったです。</p>	
<p>講師の先生がマスターまではあまり明確な目標がなかったという話を聞きましたが、会社を辞めたり博士課程に入学したり、意思をすぐさま行動に反映させたことで現在では企業が手放したくないような存在になっていて、積極的に行動する大切さを改めて感じました。自分も今はなんとなく研究に取り組んでいて、どういう仕事をしたいのかも固まっていない状態です。それ故に、就活において何から手を付ければよいのかわからず困っているのですが、大学生時代の先生が少しの気持ちで向かう先を絞っていたように、自分の中にある小さな気持ちに目を向け、少しずつ自分の意思を明確にしていきたいと思います。また、企業では専門的な知識は6割程度あればよいという話もとても為になりました。今研究している内容とかけ離れている仕事がしたいと思っても何もためらわなくていい、という考えの後押しになりました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>私は本講義を通して、大学院在学中や卒業後に企業に入社した際の研究・技術開発に取り組む姿勢について考えるきっかけとなった。今回は昭和電工の瀬戸氏からお話を拝聴した。特に印象に残っている内容は、大学と企業における研究・技術開発の類似点と相違点についてである。相違点として、目的と対象の範囲が挙げられる。現在（大学での研究で）は、新たな知識の創出を目的とし科学的に新規な物質や現象の発見に向けて取り組んでいるが、企業に入社すると、顧客への価値の創出が目的となり事業に繋がる新製品や新技術を対象とする。類似点としては、課題解決プロセスがある。求められる知識やスキルも異なってくることも学んだ。また、昭和電工で瀬戸氏が取り組んでいる事業（研究・技術開発）や心がけていることについては自分自身の研究内容や姿勢と重なる部分があり、興味をかきたてられる内容であった。内容に関してより詳しく聞いてみたいと感じた。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>キャリアはこれまでの人生の軌跡ということで自分にも何かしらの経歴があると考えられる。卒業生のリアルな意見が聞けて良かった。大学院での研究をひたすらに頑張りたいと思った。考える力は研究や仕事のみならず日常でも十分に役に立つと思うので常日頃から突き詰めて考える習慣を身に着けたいと感じた。深く考える習慣が身に着けば、初めて聞く話でも疑問点が何で何の質問をすることでそれを解消できるかを明確にすることができると思う。企業と大学の違いについて、研究の目的が違ってくると感じた。物事を深く突き詰める際には順番を決めて段階的に結論を出していくことで紐づけが上手にできていくと感じた。開発者になるためには物事に受け身にならず、自分でやりたいことをやっていくようにすべきだと感じた。モチベーションも全く違ってくるため。きつい仕事はよい経験値になるため、可能な限り挑戦したい。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>貴重な講義ありがとうございました。自分は自分の研究内容とは少し異なる分野での就職を目指しています。そのため、就職活動などに関してはあまり自分の研究のことを考えていませんでした。しかし、瀬戸先生のお話を聞いてその考えが変わりました。研究というのは、その分野を深掘りし知識量を増やして活かしていき、良い結果を出すことが大事だと考えていました。しかし、自分の人生のキャリアで大事なものは結果ではなく、そのプロセスを確立していくスキルだということに気づくことができました。そのスキルは研究で磨くことができ、仕事における技術開発や企画に活かせるだけでなく、これからの人生において重要な根幹になると思います。今までは、正直少し自分の研究を楽観視している面がありました。しかし、これからはしっかり自分お研究と向き合っ、高みを目指していきたいと思います。</p>	
<p>1番心に残った話として、物だけではなくサービスに関しても品質が重要であり、良質な品質を生み出すためには自分が学んでいる専門知識が重要であるという話であり、この話を聞いて、これから自分の研究や学問に対してもっと貪欲になろうと感じた。昭和電工さんは化学に関してあらゆる商品を生産しているということであったが、特に、黒鉛による電気炉についても興味深く、詳細な働きや仕組みについてもっと知りたいと考えた。また、このように新たな取り組みを立ち上げるために、これからのキャリアに関して少しでも見通しを立てて、チャレンジする精神を大事にしたいと考えた。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>これからどのような職種についても、研究室で今研究していることなど一つのことを深く追及すること、考える基礎力を付けることが必要であることが分かりました。クリティカルシンキングの重要性、キャリアの方向性を決める重要性に気づくことができました。このことを大学での研究生生活でもこれからの就活でも常に念頭に置き、行動に移していきたいと思います。また、仮説と検証を繰り返す点は、企業の開発や研究も大学の研究も一緒であり、研究室で行っている仮説と検証を繰り返しがし行っていることが将来の仕事において役立つことの一つなのだと気づきました。</p>	
<p>製品の品質向上のために仮説と検証の繰り返しとおっしゃっていたと思いますが、上手くいかなかった時のモチベーションの保ち方などを知りたい。最後のスライドの心がけていることの「人がやらない仕事、避ける仕事をやる」という姿勢を参考にしていきたい。昭和電工さんは採用直結型のインターンシップがあるとお聞きしたので、それらの情報や考えなどを教えていただきたい。</p>	<p>物事が上手くいかないときにモチベーションを保つためには、自分がやらないといけないという使命感を持つことも重要かと思います。「志（ころざし）」、グロービスというワードで検索すると参考になるかもしれません。インターンシップに関しては、下記のページをご覧になるのが良いかと思います。 https://www.sdk.co.jp/contents/recruit/internship/index.html</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>ご講演ありがとうございました。新潟大学の卒業生ということもあり、親近感を持ってお話が聞けて面白かったです。自分は研究職志望ではないですが、設計・開発においても実際の企業ではどれほどその分野に対して深掘りして研究しなければならないか疑問でしたが、大学院の研究とは異なりお客様主体での仕事なので6割程度の理解で十分というので少し安心しました。しかしながら、物事の原理や道筋の立て方など何かを突き詰めるというプロセスは今しか身につけられないので、今行っている研究に没頭したいと思いました。一つ気になったことは、仕事をしていく上で自分の専門でない分野の知識が当然求められる時があると思いますが、その知識についてはどの程度理解するのが良いですか？正直自分の専門知識を身につけるだけでも大変なので、仕事をやりながら勉強というのがどれほど大変か疑問です。</p>	<p>どの程度理解しなければいけないかは、その時々によって変わるので、その際に自分が必要なレベルまでの理解という答えになります。例えば、何も背景を理解せずに本に書かれている式や理論をただ使うだけのときもありますし、逆に深く理解するためにセミナーに行ったりすることもあります。</p>
<p>今回の講義で、自分が今の研究をじっくりとやっていると安心ができた反面、基礎研究の充実と知識の統合が今後の課題だと感じた。しかし、大学院生になった自分の漠然とした不安として、研究の日々に忙殺され、企業に向ける熱量が削がれてしまっている気がしてならない。私自身体力には自信があり、また勤労精神も他人よりも高いと客観的に見てもよく言われるのだが、私に会う企業や私とその企業に提供できる物を考えると、明確なものがないことがなによりも不安であることが分かった。会社や企業が何を人材として欲していて、それが自分のやりたいことと合致するのか、その条件を探し当てるのはどうすればよいか、その道筋を今後も講演される方の話を聞いていきたいと感じた。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>大学での研究と企業での研究の違いをいくつか聞いている中で、期限の有無が結構大きな違いだなと思いました。それはそもそも研究の目的が異なるためであり、今後はお客様の要望に応えるための研究をする機会の方が多くなると思います。そのために、時間をたくさんもらって研究ができる現環境の中でも、しっかり目的を定めながら研究を進めていくことが大事だと思いました。また、キャリアドリフトという考え方を常に頭に入れて数少ないチャンスを活かしていけるようにしたいと思います。</p>	
<p>今回の講義を通して、自分のキャリアマネジメントについて考えることができたので良かった。キャリアとはこれまでの人生の軌跡のことで、キャリアマネジメントはこれからの人生をどのように構築していくかということである。講義の中で大学院の研究は自分の基礎能力を高めるためにするもので、研究内容は関係ないという話があった。一つのことを深掘りし、それを身につけることができれば、他の分野のことを容易に身に付けられるようになるのである。今後私は、自分のしている研究にもっと深く取り組み、考える力を身につけたいと思う。そうすることで、将来仕事をする時に成果を出せるようになると思う。また、積極的に物事に取り組みたいと思う。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>事業に中での技術の役割や、企業と大学での研究の違いなど、わかりやすい講義でした。自分が今取り組んでいる研究の立ち位置や、就職に関して混乱している状況でしたが、すこしスッキリした様な気がします。物事に対して確実に理解しようと思っているのですが、なかなか突き詰めるのが難しいと感じているのですが、今回の講義で続けて頑張ってみようと思いました。講義の中で紹介された書籍、【ロジカルシンキング】面白そうなので読んでみようと思います。最後のスライドの心がけていることの、「受け身で待たない」で今まで少し受身でいたかなと気付きました。これから少しずつでもがんばります。</p>	
<p>大学と企業の研究の違いを具体的に知ることができました。知識探求と価値創造の目的の違い、時間無制限と有限の違いが大きく異なる点だと思いました。それによって、大学で今自分が何を学ぶべきなのかを理解できました。日々進捗が思い通りに行かないことが多いですが、その過程と考え方が重要だと気づきました。数年後の自分を想像できずに不安がありますが、今やっていることが無駄にならないと分かったので、今後のモチベーションとなりました。</p>	
<p>昭和電工は日立の化学部門を買収し、化学メーカーとしてさらに幅広い分野を手掛けるようになったため社名変更を行った。黒鉛電極は鉄のリサイクルにおいて重要な役割を果たし、今後も需要が伸びる。研究において大切なのは身に着ける知識そのものもあるが、未知の分野を学ぶ姿勢や学び方を身に着けることが大切である。企業においては高度で専門的な知識は大学ほど要求されず、一定の水準の知識を幅広く吸収することが求められる。仮説を立てて検証することが重要である。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>研究室の先輩方から、「研究職だとしても、今やっている研究とはほとんど関連ない」ということをよく言われていました。そのため、研究は真面目にやりつつも、明確な目標がわからず、正直モチベーションが上がらないということが多々ありました。しかしこの講義で、大学および企業において研究を行う目的や対象を知ることができました。おそらく大衆のためとなる研究を行いたいと思っていたからこそ今の研究のモチベーションが上がらなかったのだと思います。しかし、就職してお客さんのためとなる研究職につくためには今は知識の深掘りが必要ということで、明確な目標がわかったので、今の研究を深く考えて行っていきたいと思います。</p>	
<p>昭和電工さんのお話を伺って、まず機械系のイメージが強かったが化学も非常に強いということも分かった。自分から始める積極性、人がやらない仕事をやるというのは、自分の力になるということは私が大学1, 2年時青少年育成事業に携わっていた時、社長の方などからお話を聞く機会があったが、自分がやりたくないなと思う仕事、面倒くさいものというのはやっておいた方が力になるということを言っていました。実際に発言や、何かの役割などに挑戦したが、今考えても非常に力になったものが多くありました。社会人になっても学び挑戦し続ける姿勢が大切になってくると感じました。何が足りなくて何が必要か考える力、課題解決力というのを身に付けて今後社会人になってからも成長し続けていけるよう頑張ります。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義を聞いて、企業における問題の解決方法や学生のうちにすべき、考えるべきことを学ぶことが出来た。企業においてプロジェクトに問題が発生したときにはその問題が何に起因しているのか、真の原因は何かを考えることが重要だと知った。問題が発生したときには表面だけを見るのではなく、そのバックグラウンドまで考えることの大切さを学んだ。そして、この力をつけるには現在の研究を全力で行うことが重要だと学んだ。現在の研究で問題が起こった時にその原因を深くまで考えることで、クリティカルシンキングの能力がつくことを知った。私の専門は原子核理論であり、企業に就職した際にどのように活かせるのかあまり分からなかったが、「考え方」が企業にも生かせるということが分かった。</p>	
<p>大学と企業の違いであったり、企業の考え方に触れることができました。また、仕事に対する向き合い方で、24時間、企画、開発のことを考えるぐらいにならないといけないのだなと思いました。積極的に人がやりたがらない仕事をやる精神でいきたいと思います。</p>	
<p>企業での技術職において、現在自分が大学の研究室で行っている研究内容の知識はほとんど関係なく、自分で考えて計画を立て、実行し、分析するというプロセスが役に立つというお話が印象的でした。自分の研究を自分で考えながらやるという過程を日々大事にしていこうと思いました。また、企業での研究のお話も聞かせていただいて、企業研究も、研究室と同様仮説と検証の繰り返しであるということを実感しました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義で、自分のキャリア構築を人前で話せるか、という質問が印象に残った。自分は出来ない。しかし、話せる人がいたこと。その人は会社を今やっていること。自分にも似たような友達がいることから情けなく感じた。現在就活で悩んでいるが、自分の研究と全く同じ分野でなければならないと考える必要はない、ということや、大学での研究や企業での研究は違うということが認識を改めなければならないと肝に銘じた。研究の目的が、知識の創出か、顧客のためのものか、どちらを行いたい。自分は前者である。就職を考えてはいて、企業探索を行ってはいたが働きたいと思えたことはなかった。そのため、モチベーションが上がらない原因が理解できたような気がした。ところで、キャリア関係の講義では、当たり前のように昔の成功者の名前を出されますが、知っていて損はないだろうが知らないことで損はあるのでしょうか？知っていなければならないものですか？</p>	<p>学生のうちは、キャリア関係の講義で聞いた際に「もし興味を持ったら調べてみる」くらいのスタンスで十分だと思います。 会社に入ったとしても自分で必要と思うまで（ビジネス上の課題に当たるまでは）は知っていなくても良いと思います（私が新入社員に進めるのはロジカルシンキングやモノの考え方の本ばかりです）。</p>
<p>自分には明確にやりたい事やキャリアプランが無かったので、先生のお話を聞かせて頂いて、とても共感できました。自分の行って来た事を振り返った時に、進学タイミングやなにか決断を行った時に自分のやりたい事を決めていると感じました。その時の自分の選択を鑑みながら、自分のやりたい事の方向性を決めていきたいです。また、常に周りからアイデアを得ながら、自分からやると決めた事はやり通して、自分自身を成長させていけるようにしたいです。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>私は今回の講義を聞いて、大学や大学院で学んだことを企業で生かすための難しさを改めて痛感しました。私は現在「医療物理学」という分野を主に勉強しているのですが、この先の人生でこの内容がどれだけ役に立つんだろうかと常々思っていました。今回の講義で大学院と企業では求められる知識が違ふとはっきり言うてくださったことで、これからは自分の研究しているテーマだけの技術ではなく、企業にも求められるであろうその土台となっている部分(知識)を伸ばしそうと強く思いました。</p>	
<p>現在、研究をしているが、この研究を今後の進路にどう活かすかを悩んでいたが、大学では基礎力を磨く場所であり、研究をそのまま活かすことはあまりないという話を聞いて少し安心した。研究を通して得られる知識などもそうだが、研究を進める過程なども自分の力にしたい。</p>	
<p>瀬戸さんの学生の頃のキャリアマネジメントがかなり適当で緊張がほぐれました。講義中で、大学で学んだことはあくまで下積みで、企業に就職した後もたくさん勉強する機会があり、専門の技術者になる道が開けていることを知れて良かったです。加えて、博士の採用人数が年々増加しているということから、少し日本の未来に希望が持てました。私に挙手発言をする勇気があれば、日本の年収とGDPが海外諸国と比べて20年ほどほとんど成長していないことに関して、考えをお聞きしたかったです。学生コメントに、前回の課題の講義を記させていただきます。アルバイトに行く時間が迫っており、提出できませんでした。申し訳ありません。期限を過ぎた場合は採点しないと前回お聞きしましたが、それでも構いません。私が講義を聞いて思うところを述べさせていただきます。</p>	<p>実際、私が大学院の修士を卒業したころ（20年ちょっと前です）から大卒の初任給はほとんど上がっておりません。 GDPに関してはよく言われるように日本企業の生産性の課題をグローバルで働いていると感じますが、その要因の一つとして、日本人のグローバル社会における能力が上がっていないということもありますし、多くの日本企業もグローバル人材をしっかりと評価して処遇できていないということもあります。日本においては、人材育成が非常に重要と思っており、昭和電工の高橋社長もインタビューにて、人材育成に全てをかけると言っておりますので、興味があれば検索してみてください。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>常に開発や研究について考えておくというのは確かにと思いました。自分自身の経験を振り返っていても受験や研究の進捗が出ている時は夢中になって1日中考え続けている時でした。質問 日本人と欧州や米国との違いは何がありますでしょうか。</p>	<p>よく言われる点ですが、日本人の方が自己主張が少ないということはグローバルビジネスの場で感じており、英語力の低さも相まってグローバル人材が輩出されにくい土壌になっていると思います。日本人はコツコツと勤勉に働く傾向があり、その部分は長所ですが、逆に現状を変えずにコツコツと働くこともあるので生産性が改善しないというデメリットもあって感じています。</p>
<p>今回の講義では、講師の方が行った事業を元に、技術者にはどういった心構えやスキルが必要かといったことについての話だった。話の中で企業と大学の研究は相違点もあるが類似点もあり、課題解決プロセスにおいて、仮説→調査実験→解説・考察といった過程は共通してるということだった。その仮説を立てる段階で物事の原理原則を徹底的に深掘りする(クリティカル・シンキング)の考えが重要で今のうちに身につけられるよう基礎的な知識をしっかり身につけ、普段から意識していきたい。</p>	
<p>今回の講義を聴いて、「技術」に関する考え方が大きく変わった。例えば、単純に製品のスペックを向上させることを意味するのではなく、価格の低減や納期の短縮などのお客様のニーズに応えることも技術であるということに納得した。製品を世界シェアが高いところまで売り上げるためには、その製品のスペックが高いことは最重要事項ではあるが、コストパフォーマンスなども大切な要素になってくるので、エンジニアにはそれらのことも考慮して開発をしなければいけないと感じた。また、製品の開発は単一の分野の知識ではなく幅広い知識が使われているので、自分の専門外のことも原理などからしっかりと勉強していくことが大切だと思った。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の授業を聞いて、研究を続けたい場合、何を目的にしたいかで大学で研究を続けるか企業で研究をするか決めるといった話が印象に残った。私は研究を続けたいとは思っていないが、大学と企業の研究に対する姿勢の違いが具体的にわかりその違いに驚いた。特に、大学での研究は完成度100パーセントを目指しているが、企業では、顧客のニーズに答えることを最優先としているという違いに、お金が関わるとこうも変わるものなんだなと感じた。また、大学で研究を頑張ることは、その分野で活躍するに限らなくても、企業に入ったときに役立つという話も印象に残った。私は今あまり研究に集中していないのが正直なところだが、将来のために力を身につけたいとも考えていた。力をつけるためには、何か新しく素晴らしいことを始めるよりも、今やっていることを全力で頑張ればよいということを学んだ。今日の前にある問題や課題から全力で取り組んでいきたい。</p>	
<p>自分も自然環境科学プログラムなので親近感を持ちながらお話を聞いていました。研究室が厳しかったが、そこで身につけた能力が今でも役に立っているというお話が特に印象に残りました。自分の研究テーマも直接企業での研究開発につながるものではないと思いますが、研究を通じて基礎力を身につけられるよう努力したいと思いました。</p>	
<p>大学と企業でやることの違いを詳しく知れました。日本の製造業界についても新しい知識を得たので就活に活かそうと思います？</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>黒鉛電極が効率化されることで、現在では昔と違い、環境問題に対して良い影響があることを聞き、既存の技術を進化させることで、さまざまな問題に寄与することができるのだろうと感じた。また、いまからでも先生が仰っていた、心がけていることを実践していこうと思いました。</p>	
<p>最近、就活を考え始めてみて、大学院に進んだからこそ自分の研究分野を活かさなければならないだろうとか今の研究を生かす企業なんてあるのかななど色々悩んでいました。しかし、本日の講義を聞いて、キャリアは人それぞれ違うし、やりたいことの軸があれば今後活かせるところが来るだろうと自信ができました。ありがとうございました</p>	
<p>品質とは製品やサービスなど多岐にわたり関わっており、また商売する上でとても大事な要素であることが分かった。さらに製品の品質は研究で成り立っており、大学院で学んでいる専門知識を役立てる場所であると感じた。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>商品をたくさん宣伝しても、品質が良くなければ売れない。品質を上げるために仮説・実証していかなければならず、そのプロセスは研究活動で身につけることができる。自分に能力を高めるためには5つのことが重要である。1.自分から始める、他人からの指示、指導、フォローを受け身で持たない、2.人がやらない仕事、避ける仕事、厳しくても栄養価が高い3.1度きりのチャンスと感じた仕事は絶対にそこで決める4.成果を上げ続けて、自分でやりたいこと、やると決めたことをやる。好きなことはいくらでもできる。5.24時間、常に開発案件や企画案件を考えて先陣を切って物事を進める。日々の生活の中で完全に仕事スイッチを切らない。私は研究が将来何に役が立つのかよくわからなかったが、この授業で「研究を通して課題を解決する力を身につけることができる」と聞き、少し自信がついた。</p>	
<p>研究テーマがそのまま仕事になるケースは少ないと聞いて、たしかにそうだなと感じました。専門技術や基礎知識、一般教養など大切にしたいと思いました。また、普段から何かに役立つものがないか気をつけているということで、日常的に周りに興味を持つことを意識してみようと思いました。</p>	
<p>開発職の人が企業でどのような意識で働けばよいのかが分かり、参考になった。開発しただけでは、商品は売れず、企画も大切であったり、開発だけをしたいのなら、24時間その開発のことを考える必要があると聞いて、企業と研究の両立の大変さが分かった。自分のキャリアを考えることの大切さが学べた。紹介された本を読もうと思った。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義では企業で働く上で思考力や問題解決能力が重要であることがわかった。私は研究に関して思いつくことはあっても思いついたアイデアのパーツをつなぎ合わせて一つの考えやゴールに向けることが苦手なので思いついたことなどを結び付けれるような整理や何が目的なのかをはっきりできるようにして、考えを一つの形にできるようにしていきたいです。</p>	
<p>本日は、貴重なお話ありがとうございました。黒鉛電極という存在を初めて知りました。黒鉛電極の分野のように、専門分野の知識を極めることでそれに関連した職種に就職できなかったとしても、極めたことで学べることもたくさんあるという話には、とても共感しました。大学でのキャリアと企業でのキャリア、それぞれ異なる点、利点、不利な点を学びました。</p>	
<p>スイッチをOFFにするなという教えは響きました。私自身、完全に研究の事を考えずに遊ぶ日を作ってしまうと、それまでに考えていた事を忘れる、思い出して構築し直すのに時間がかかるなど感じていたところでした。思いついた事をメモする習慣をつけたいと思います。</p>	
<p>企業開発での問題解決、仮説を立てて実験を行い結果から考察した、という事例がとても印象的でした。大学での研究の経験が企業開発に活かされていると感じました。</p>	
<p>貴重なお話をありがとうございました。大学と企業の違いについて、目的や研究の対象が大きく異なっており、自分の目指すキャリアに合う選択をしようと思います。自分の大学で学んだことに固執する必要はなく、学ぶ姿勢を持っていくことで、企業で活躍できる人材になれるというとおっしゃっていたことが一番印象に残っております。真摯に学ぶ姿勢を持って社会に出ていこうと思います。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>貴重なお話ありがとうございました。モノづくりの仕事を担当する企業の中において、研究・開発職は基盤となっており、重要な役割を持っているというお話を聞き、学生という立場でありながらも研究を行っている身としてとても勇気をいただきました。瀬戸さんがおっしゃっていたキャリアマネジメントと似ており、私の今の段階で考えているキャリアマネジメントは、大学で行っているような基礎研究ではなく、消費者に直接貢献できるような研究・開発に携わりたいと考えています。今自分が行っている研究は実際に目に見えて世の中に貢献できるようなことではないかもしれませんが、研究における課題解決のプロセスは企業においても大学においても共通するところがあるとおっしゃっていたので、大学においてしっかり課題解決力を身につけていきたいと思いました。</p>	
<p>科学技術について、自分は全然詳しくないので、一つの事業でも様々な工程があり、それぞれに専門家がいると言うのが、言われてみれば確かにと言う感じではありますが、あまり想像していませんでした。最後に話されてた24時間考えておくと言うのは、開発や研究だけでなくさまざまな仕事でそうあれたらいいと思いました。24時間、様々な情報を得ようとする中で、自由な発想が生まれると考えました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>技術として、お客様の要求に応えるような研究開発が重要であるという点が印象的であった。また、その技術が事業を支える「品質」に繋がるということも興味深かった。黒鉛電極の例を挙げながら、品質改善の研究プロセスを具体的にご説明いただき、その難しさを感じた。実際に、品質を改善したことで製品の売りに繋がったということで、品質管理や品質改善技術の重要性を強く感じた。大学の研究の現場ではお客様を感じることはないが、企業で働くうえでは非常に重要であると思うので、今後の糧にしたいと思う。</p>	
<p>今回も大変有意義なお話を聞くことができた。私自身人前が苦手で、プレゼンテーション能力には不安を覚えていたが、今回のお話でその勘所を捉えることができたと思う。とはいえ、プレゼンテーションは実践あってこそだと思うので、ゼミの発表及び就職面接などで積極的に試していきたいと思う。</p>	
<p>今回講義を受講して、印象に残ったことは大学・企業での研究の違いといつも心掛けていることです。大学での研究と企業での研究はあらゆる点において大きく違い、その中でも研究目的が企業においては利益創出のためどれだけ会社に還元できるかにおいて重点があるのに対して大学での研究は知識創出のために研究をするという目的の差が大きいと感じました。また先生がいつも心掛けていることをいくつか挙げてもらいましたがもっとも重要な事柄はまず自分から始めるということだと思いました。特に研究というものはだれもみちを作っていない環境で切り開いていく必要があるため、誰の助けも得ることができないため自分から積極的に助言を求める、調べていくということが研究において大切だし、ほかのことに関しても言えるのだなと感じました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>キャリアアップについて講義を聞かせていただきました。わたしも建築を学び設計者としてキャリアを積みゆくゆくキャリアアップを図りたいと思っているところもあり少しでも参考にしていきたいと思います。</p>	
<p>大学の研究の場合は得られるスキルを用いて、事業経営の品?を向上させるのを目指しています。ものづくりの事業においてお客様の要求に応えることが出来るのは研究開発も含む技術です。</p>	
<p>瀬戸さんは最終的には昭和電工で化学分野に携わっているが、新卒で就職して12月に退職していたり、いったん新潟大学の博士課程に戻ったりなど、キャリア形成の方法は様々であると感じた。私は新卒就職は人生最後の分かれ道のような感覚を持っていたが、自分が何をしたいのかを考えてキャリア形成をすることが重要だと改めて考えさせられるいい機会になった。</p>	
<p>卒業後は開発の業務に携わりたいと考えているため、非常に参考になった。研究においても、面倒に感じるタスクほどリターンも大きい場合が多いため、実感も伴って講義を拝聴した。</p>	
<p>研究も働くこともそうですが、自分のしていることがなんらかの形で社会に還元されることを目指していたので、対象分野は異なるが本講義を聞いてそれを実現するためにはどうしたらよいか学ぶことができたと感じた。</p>	
<p>将来に対して、この職業に就きたいとぼんやりとしたイメージしか持っていなかったのですが、どんなことをしたいか、を明確に考えて、やりたいことをするためにどうすべきかを考えていきたいと思いました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>新潟大学を卒業された先輩に、大学生時代のお話から企業のお話までたくさん聞かせていただいて、とても参考になりました。ぶっちゃけたお話までされていて少し驚きました。また企業や研究のお話では私が普段やっている分野と違う分野だったので、どれも新鮮で面白かったです。私も将来は開発職につきたいと考えているので、スライドの心がけていることを私も実践していきたいです。</p>	
<p>企業で問題が発生した時も仮説と検証を繰り返して問題解決していくことがわかった。また、自分のキャリアの方向性だけでも考えようと思った。</p>	
<p>昭和電工グループが化学系分野だけでなく、エネルギーや金属などさまざまな分野を手がけていることに驚きました。そして、その規模の大きさ、手がける範囲の広さが安定した収益の理由と知って納得することが出来ました。また、実際に働いている方から会社で仕事をする上で必要な能力、伸ばして行かなければならない能力を聞くことができ、これからの大学院の生活でそれらの能力を成長させなければならぬと思いました。</p>	
<p>大学での研究と、企業での研究との違いについて今日はっきり分かりました。企業での研究に興味があったのですが、明確にどうして企業での研究をしたいか言語化できていなかったのが、よかったです。企業は顧客のために仕事をし、「ありがとう」の気持ちとして利益が出るという言葉で、仕事に対しての考えが変わりました。仕事をするということは誰かの役に立っていることにつながるのだと分かりました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>自分の大学での研究が社会でどのように活かせるかが不安でした。しかし、この講義を受けて自分の研究で将来を決めつける必要はないと分かり、今行っている研究に集中することが大切だと気付かされました。確かに、研究での考え方(仮説を立ててそれを検証するなど)は社会に出た時にも大切だと思いますし、一つのことを深めることは他の分野を学習する際にも役に立つと思うので、大学では自分の研究をより深めていこうと思います。</p>	
<p>化学研究者のキャリアパスや黒鉛燃料といったこれまで知らなかった世界の話を知ることができました。私の専門分野は看護大学の増加に伴い、マスターやドクターの受け皿の需要が高く、就職活動よりも「質」が問われている現状です。そのようななか、他分野におけるマスターやドクターの立ち位置や就職活動といった現状を学び、共に思考過程を共有することで問題視されている「質」向上に繋がりたいという思いから本講義選択理由の再確認ができました。先進国のなかで大学院進学率の低いわが国における院卒の地位向上や研究環境の改善といった点から「マスターの仕事」ではなく「マスター取得過程で得られる思考の深さ」を大学院生活で身に付け、活躍する素地を習得したいです。新潟大学を卒業し、活躍されている先輩から話を聞く機会となり、新潟大学の他分野についても学ぶ機会になりました。ありがとうございました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>新潟大学出身の方であり、学生時代は空手に打ち込んでいて進路についてあまり考えていなかったこと、一番人気のない、厳しい研究室に入ったことなどのお話のような共通点から少し親近感を感じながらお話をお聞きしました。また研究室時代には原理などについてなぜそうなるか深く考えた力が役に立ったということで、普段私が研究室で感じていたことと一致しており、普段のゼミからさらに意識して取り組もうと思いました。私も博士課程に行くか、企業に行くか迷っておりましたが、日本の最前線で戦うなら博士に進むのがよいというお話がとても印象に残りました。今日の講義を参考にして自身のキャリアパスを考えたいと思います。</p>	
<p>大学と企業の類似点は課題解決プロセスは同じで仮説→調査→実験→解析・考察の繰り返しである。また、違いは目的と対象の範囲。企業の技術開発では異分野の人々と協力して組織で行うことが普通で、期限は市場（顧客）が決めることが大きな違いである。クリティカルシンキングの話が興味深かった。その事象に対して根本的なことを考えることの重要性やバックグラウンドを考えることが大切なんだと感じた。原理と原則を考える。</p>	
<p>キャリアや黒鉛電極のお話大変興味深かったです。ありがとうございました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回のセミナーでも、大学と企業の思想の差という話題があったため、この差を理解して念頭に置いておくことは重要であると感じた。さらに今回のセミナーでは、差だけではなく似ている部分も話していたのでこれも覚えておきたいと思った。また、最初は自分のやりたいことでなくてもいつかはやりたいことにつながるという話を聞いて、物事はある一つの分野だけで構成されているのではなく、複数で広範囲の分野にまたがって成り立っているのだと感じた。最後の話題の中に、厳しい仕事は栄養価が高いというものと、1度きりのチャンスだと感じたことは逃してはならないという話があったが、最近の自分の状況と重なるものがあり、非常に心に響いた。正直少し諦めようと考えていたため、ムチを打たれたような気持ちになり、頑張ろうと感じた。</p>	
<p>貴重なご講演ありがとうございました。他の講義では講演者の出身大学や経歴を聞き、自分とはかけ離れた成功者のありがたい講演のように思っていました。新潟大学を卒業された先輩である方のお話を聞くことが出来たことは非常に有意義に感じました。質問 修士で卒業して就職をした後、大学の博士課程に進学したと思うのですが、なぜ再就職ではなく博士課程の進学だったのでしょうか。また、昭和電工に修士課程修了後就職していたとしたら、今のような活躍やキャリアはあったと思いますか。</p>	
<p>本日の講義では就職したあと、数年経過しても24時間可能な限り仕事の改善について考えることの大切さを学んだ。キャリアについての話は全体的に少なかったが実際に黒鉛電極を開発していくなかでの実際の改善プロジェクトの実例について学べてよかった。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>キャリアマネジメントについて理解を深めることが出来、とても良い経験になった。体験談などが参考になった。</p>	
<p>今回の講義を通して、研究をやるという一点で考えると大学、企業どちらが良いのかを初めて考えることができました。自分は科学的に新規性のあるものを探すのより、事業に繋がり人に役立つものを作りたいと考えているので、企業が向いていると思いました。また、課題を考えて解決するという事は企業、大学両方同じように必要なスキルなため、今から自分で考えて仮説から解決まで行動してみたいと思います。今回の話を聞いて、やはり今必要とされている人は自分で考え、行動できる人で、そのような人は成果を上げ続けて自分のやりたい事をやれるのだと理解しました。自分の考えでは、企業で60%の理解でいいというのは、そもそもロジカルシンキングな考えが身につけていて、必要なラインがわかるためだと思いました。将来の役に立つと紹介されていたロジカルシンキングの本を読みたいです。</p>	
<p>今回は昭和電工のケースを中心に講演頂き、理系学生という自分の立場を考えて今後の立ち振る舞いを検討したが、技術開発によって中小企業であれば開発全体の先頭に、大企業であればある一分野における代表として技術力を活かしていきたい</p>	
<p>開発の仕事は仕事が終わってもスイッチを切らずに少しでも仕事に活かせることを見つけたらメモしることが重要だという話を聞いて勉強になった。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>課題解決へのプロセスが、目的や対象範囲が異なっているということも学んだ。私は将来研究職に就く予定はなく、博士後期課程への進学も考えていないが、社会人になってからの力を今からつけるためにも、課題解決プロセスを意識して頑張りたい。</p>	
<p>企業での研究と大学での研究の違いが言語化できていなかったが、今回の講義を通して違いが明確になった。私は、物事の原理を突き詰めるよりも、人の生活をより良くすることに直結する仕事に興味があるため、企業就職を目指そうと思った。しかし、企業でも大学でも課題解決のプロセスは同じで、企業で活躍するためにも大学時代は原理原則を深掘し、真の原因を考える癖をつけるべきだと学んだ。技術者として社会により良いものを届けるために、人がやらないことにも自分から積極的にチャレンジし、チャンスを逃さず、成果を上げ続ける人間を目指したいと考える。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義から、企業は大学とは違い市場や顧客によって決められる期限や要求に沿って行動しているが、課題解決におけるプロセスは大学での学修と同じであることを理解した。特に、化学工学全般の概要や黒鉛電極の品質向上のための課題解決プロセスのエピソードで説明されたように、化学工学において要求される技術、研究の幅が広いことが印象に残った。大学院入学試験の面接において卒業後の進路について化学工学の分野を勧められたことがあり、なぜ研究内容との関連がほとんどない化学工学を勧められるのか分からなかったが、今回の講義で様々な研究分野の人が活躍できる化学工学の分野に興味を持つことができた。また、求められる知識とスキルについて大学・大学院と社会人を比較するピラミッドの図があったが、業務を遂行することでピラミッドの横幅が広がるイメージは大学・大学院での学修は無駄にならない主張とリンクしており分かりやすいと思った。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>本講義では、瀬戸様の実体験を交えたキャリアマネジメントについてご説明があった。私は現在修士1年で、博士進学か就職かで迷っているのですが、本講義は自分の将来を考えるうえで非常に有意義なものだった。現在行っている研究を活かした職に就きたいと漠然と考えていた自分にとって、今行っている研究を精一杯に行い、基礎力を身に付けることが大切だというお話は、将来の職業選択の幅を広めるきっかけになった。また、いったん企業に就職したうえで、大学に戻るのも一つの手だということで、博士or就職の二択で考えるのではなく、柔軟な選択をとることを心掛けたい。最後に、「自分から率先して始めてみる」「人がやらないことにチャレンジしてみる」「1度きりのチャンスと思う」など今日から意識して研究活動を行っていきたいと思った。本日は貴重なご講演ありがとうございました。</p>	
<p>大学で行っている基礎研究は、物事を身に付けるためにとても重要であることが分かりました。また、本日の講義において、海外での黒鉛電極に問題が発生した際、その原因解明を模索したと話されていましたが、日本と同条件で黒鉛電極の作製は行わなかったのでしょうか。日本での黒鉛電極作製に問題ないのであれば、他の国でもその工程操作を模倣すれば、日本と同質の黒鉛電極を作れるのではないかと思います。</p>	<p>日本と海外では、使用している設備の違い、使用する原材料の違い、働いているエンジニアやオペレーターの習熟度の違い等もあって、同じ製造条件が使えませんでしたので、日本の考え方をベースとしてその工場に適合した製造条件を開発しました。</p>

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>私は特に目標もなく大学院へ進学して、今は論文に追われて研究も先生方に色々助言をもらいながらではできません。研究における、PDCAを一人では上手く回せず、論理的思考力も身につけていないのではと心配になりました。ただ、わからないことがあれば、わかるまで聞いたり調べたり突き詰められる環境にいることは確かなので、不安はありつつも成長できればいいなと思いました。今学んでいることを直接仕事に活かしたいと強くは思いませんが、学ぶという基礎力を大学院で高めていけるよう努力していきたいです。</p>	
<p>今回の講義では通信状況のトラブルにより半分程度聞くことができていなかったが、勉強になることは多かったと思う。どの企業も仮説を検証するのにかなりの思考錯誤の時間がかかっており、大学院で学んでいる研究に関する考え方と全く同じであるように感じた。あまり、現在行っていることが将来に直接結びつくイメージができてはいなかったが、今回の講義を通してより社会に出ることのイメージができたと思う。</p>	
<p>私も自然環境科学プログラム出身であり、環境や化学系の職を考えていたので、1つの例として非常に参考になりました。</p>	
<p>専門性を高める努力をすることが大事であるということが身に沁みました。これからも必死に研究を頑張りたいと思いました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>現在、私は軌道の振動応答の研究を行っていますが、その定式化が研究の大元となっており、私が所属している研究室のゼミでは必ずと言っていいほど式の意味の説明を求められます。そこで瀬戸先生のご経験の中で、物事の意味を深掘りする癖がついたというお話がありましたが、それが将来、真の原因を考える力に結び付くと信じていまの研究における定式化の深掘りを頑張っていきたいです。大学にいる意義は学ぶ姿勢を身につけることだと教えていただき、これからの研究活動に生かしていこうと思いました。また、就活においても、もっと自分の内面を見てもらえるように邁進したいです。というのも、もう少し研究に本腰を入れて、自分の研究に対する姿勢が企業側に伝わるように研究に打ち込みたいと思ったからです。本日は貴重なお話をありがとうございました。</p>	
<p>今回の講義を受けて、化学業界はどんなことをやっている業界なのか、大学と企業の研究の違い、企業で求められる知識・スキルについて学びました。講義の中で、海外工場の電極の品質改善の話が特に興味深かったです。仮説を立てて、検証して、その結果を評価する。そして、それでも改善しない時は、また仮説、検証、評価を繰り返していくという流れが大事だというのは本を読んだりして聞いたことがありましたが、実際にそれをどういう風に仕事に活かしていくのかを知ることができて今回は非常に勉強になりました。どういう風に、仮説を立てるのか、検証するのか、評価するのかは、決まった方法があるわけではなく、その人の発想力次第で上手くいくかが決まると思います。その発想力を、大学院の研究で磨いていこうと思いました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>本日の昭和電工グループのお話を聞いて昭和電工について詳しく知ることが出来ました。出荷額2位（自動車産業に次ぐ）営業利益率1位→手がけている分野の広さから、収益が安定・規模が大きい・世の中への影響範囲が広い・収入が安定など知らないことだらけで自分が思っていた以上に素晴らしい企業だと感じました。やはり研究テーマが企業と違って全く関係ないと受け取っても良いでしょうか？</p>	<p>例えば、黒鉛電極事業に関して言えば、大学で炭素や黒鉛のことを研究テーマとしてやってきた人間いうのはほとんどいません。化学業界は裾野が広いので幅広い分野の人たちが活躍できる可能性があると思います。</p> <p>研究テーマと企業ニーズの一致が必要なケースもありますが、関係ないケースも多いと考えていただければと思います。</p>
<p>研究活動の意義や目的は企業と大学で大きく異なることが理解できました。企業では原理等については必ずしも細部まで追求せず、あくまで結果や利益を得ることが目的であること、大学とは違い外部から定められた期限の中で一定の結果を出さなければならないことが分かりました。</p>	
<p>最後に提示された「心がけていること」は私の研究活動にもいえることだと思いました。特に私は物事に積極的でない自覚があるので「自分から始める」というスタンスを意識していきたいと感じました。</p>	
<p>今日の講義で印象に残っている言葉は「研究とは自己能力を高めるものであり、自分の研究内容に当てはまる就職先を見つける必要はない」というものだ。実際、研究は自分の能力を育てるものという認識は前々からあったが、そろそろインターンという現在では頭の何処かにこの企業には自分の研究が役に立つかもしれないという考えが少なからず存在していた。それは大切なことかもしれないが、今日の講義で就職先の選択肢を自分で狭めているのではないかとふと思った。企業研究真っ盛りの今、自分の研究は一旦頭から捨てて考えると目からウロコな選択肢が見つかるかもしれない。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>私は、修士を出て企業に就職したいと考えていますが、まだ企業研究や自己分析を始めたばかりで、これからのビジョンが明確には定まっていません。今回の講義を聞いて、企業と大学の目的の違いが分かり、将来はお客さんに価値を提供したいというのは自分の根底にあったので、博士課程に進む選択肢も少し考えて悩んでいましたが、企業に就職して人の生活をよりよくするために働きたいというビジョンが固まりました。最近はずりが就活のことに動き出しているのを見て、漠然とした不安に駆られていました。しかし、今は原理・原則を深く考えて研究に取り組むことが、就職した後の仕事につながるという話を聞いて、将来のことは考えつつもまずは、目の前の研究に真摯に取り組もうと決心しました。貴重なお話をいただき、本当にありがとうございました。</p>	
<p>本日の講義では、キャリアマネジメントは自分の進む方向が決まっていれば良いということをおっしゃっていて、驚きました。自分は何歳に一をするまたはなる。など具体的なところまで考えていくものだと考えていました。また、経験談が多くとてもわかりやすかったです。アドバイスが多く他の授業とは違いすぐに行うべきことが見つけやすかったです。今後は自身のスキルを磨くためには何をすべきかよく考えてみようと思います。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義の内容で、黒鉛電極に関する評価技術を開発して、電極の品質を向上するお話がありました。評価技術を作るのに半年かかったとのことでしたが、個人的な感想としては、半年という期間は短いと感じました。これは、昭和電工に、その開発を行えるだけの土壌があることが要因なのではないかなと思います。例えば、黒鉛電極のデータをとるための設備があることや、仮説と検証のフローを行うための社内プロセスが整っていること、黒鉛電極に関わる周辺知識が整理されているなどです。コストと速度感ということもおっしゃっていたと思いますが。このような土壌を作ることが開発の速度を上げるために重要だなと感じました。</p>	
<p>最後の質問タイムまで出席していたが、講師の方の話方や学生の質問への受け答え方などがとても理知的でかつ柔らかい印象があり、この方の下で働いてみたいと思った。他にも自分が日々行っている研究を企業に就職したときにどう活かすかの考え方を教えて頂いたため、今後の研究活動の方針を見据えることが出来た。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>以前の第4講での講義でも出てきたが、大学における研究と企業における研究は目的や到達点等様々な部分で違いが表れるのだと改めて感じた。そのため、それに至る知識のつけ方も大学で研究するのと、企業で研究するのでは異なる。企業における研究がどのように扱われているのかを黒鉛電極の具体例から理解することができた。また、企業における第一の目的は顧客に対してモノを届けることでどれだけ価値を創出できるかである。顧客が企業のモノに対して満足しなければ、他社に追い抜かれたり、継続的に利用して貰えなかったりすることは当然である。したがって、期限や条件は顧客側のニーズに対応して決まるものである。そのため、問題解決や品質向上のための研究による過程は大学も企業も同様であるが、深度や利用の仕方に違いがあらわれるのだと理解した。企業においても根本は、学ぶ姿勢であり、意識なのだと感じた。</p>	
<p>”博士課程に進んだ人は、その学問を究めた人だから、他の事も容易に修得できるはず”というお言葉について、どうしてだろうと考えていました。一つの狭い学問についてのみ深く調べるということをして、何も関係ない分野の事柄の修得に繋がるのか、不思議でした。授業でのお話の流れから、深く考えて調べる力・突き詰める力を持っているから、その他の分野についても学び方が分かるということなのだろうかとも予想しましたが、それだけではなく、他の理由があるように思え、いまいち確信が得られません。最後の方におっしゃっていた、“めんどくさいこと、大変なことは自分の糧になる”というお話とも繋がったりしているのでしょうか。今後の私の大学院での学びの進め方の参考にさせて頂きたい部分のお話でしたので、もし宜しければ、詳しく教えて頂きたいです。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>本日の講義を聞いて、特に印象に残ったことは、大学と企業の相違点である。この二者は目的や対象が異なり、また、企業では異分野の人々が協力して開発に取り組んでおり、期限は顧客が決めるなど、様々な点で異なる。一方で、課題解決へのプロセスは両者とも共通しており、仮説→調査・実験→解析・考察の繰り返しである。このため、大学で学んだことをそのまま仕事で活かせることは多くないが、研究で培ったノウハウは仕事で活かすことができる。また、常に開発や企画案件について考えることが大切であり、日常生活においても何かに使えないかと考えることも大切であると知った。</p>	
<p>企業だと約6割の研究段階で商品を納期することに驚いた。勿論6割とはいえ、使用上問題はないと思うが、予算、締切等様々な理由により、研究者として時間をかけて自信を持って商品を開発ができないのは、もどかしく感じる部分もあるのだろうと感じた。質問としては、たまに営業の方と技術の方が、納期や仕様で揉めることがあると聞きますが、実際にそのようなことは今までありましたか？</p>	<p>営業、技術・モノづくりにはそれぞれ目線や事情がありますので営業と技術が納期や仕様で議論するというの一般的なことです。ただお客様の役に立つものを届けるという目的は一緒ですので、最後は落としどころが見つかります。</p>
<p>貴重なお話ありがとうございました。適切なキャリアの設計が行えるようにまずは自分の研究についてとことん深く勉強しようと思います。また、講義中に大勢の中で発言することの重要さには自分の中で気づいていたつもりでしたが、実際に求められると手が上がらないというのが事実でした。深く考えすぎず、ああいった場で積極的にこれからは発言をしていきます。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>本日は貴重な講義をしていただき、ありがとうございました。化学の話が多く出てきて、自分とは関係のない話だなと初めは感じていたのですが、研究者として共通する部分がたくさんありとても考えさせられる会だったなと感じています。中でも研究者としての心構えの部分の話が印象に残っているので、その話を胸に刻み込んで今後の研究や社会貢献に役立てていきたいなと思います。</p>	
<p>スピード感やコスト感を身につけるためにも社会に出ることは必要ということに非常に共感しました。普段実験など行う際、自分の中での目的意識を持って取り組むように心掛けてはいますが、企業と違って時間の区切りが無いことや、利益を考える必要がないこと、自分のやりたい研究を行えることなど、研究を進める環境は整っている一方で、行っていることに対する社会的な意義をあまり考えていなかったりすることで個人のスキルアップや社会性の成長速度が遅くなりがちであると感じています。このまま2年間大学生活を送っていると、社会性の面で学部卒の同期と比べてだんだん差が大きくなるという不安があるため、個人的にキャリアコーチングサービスを利用して思考力やスピード感、経済感覚などの実践学習を行っています。院での2年間を最大限に利用して理系としての知識を蓄えるだけでなく、社会に出て即戦力となれる人材になりたいと改めて感じました。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>貴重なお話ありがとうございました。今回の講義では大学での研究を終えた後、どのような方向へ進むのかを考える機会となりました。今の私では大学と企業の研究のスピードの違いの想像がまだできていない、一度企業へ就職したいと思いました。『品質保証に1年かかったとしたら、企業は売り上げが出ない』という言葉から、手あたり次第仮説を立て、検証できるのではなく、一つ一つの仮設・検証が大事で、常に結果が早く出ることを求められているのだらうと思いました。企業の研究は、深堀をするところ、しないところの見極めなどがとても難しそうだと感じました。また企業の研究に関して、企業ように主に組織で行う研究体制が想像できないのですが、研究の流れとしては、ミーティングなどを行って方針を決め、実験は分担をして個人で行い、結果をまたミーティングで報告しまとめるというようにするのでしょうか。</p>	<p>理解の通りです。 組織の目標に応じたテーマ案設定がリーダーによって行われ、それをもとに部署で打ち合わせ、担当者 or 担当チーム（企業の場合には1人ということは少ないです）が設定され、定期的に検討会でレビューしながら進めていくというのが一般的な流れです。</p>
<p>私は、本日の講義で大学と企業での研究への捉え方の違いを知り、非常に勉強になりました。特に企業においては60%の完成度でいい時もあるという考え方を持っている場合もあることを知り、根本的に大学との違いを感じました。私自身は企業との合同研究を行う中で、企業の方が100%を求めていると考えていたため、普段の研究よりも気合を入れてやっていたが、今考えるとそこまで求めていなかったのかもしれない。今後、企業に入って研究開発職に就きたいと考えているため、本日学んだ研究職でやりたいことを実現させるために必要な考え方やロジカルシンキングを大切に、将来の社会人生活に挑みたいと思います。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義では新潟大学出身の方という事で親近感を感じ、また大学卒業後の進路をよりリアルに感じることのできる講義でした。昭和電工のかたという事で昭和電工で行ってきた事をメインにキャリアについてお話しいただきました。他の方の講義でもあったように大学と企業では目的や対象の範囲が異なる、異分野の方々と協力して行うことが普通である、期限に限りがあるという点で異なるという話を聞き、考え方の違いや異分野への理解が大切になってくるのだと改めて思いました。また、これから必要な考え方をいくつかお話しいただき、その中でも他人からの指示・指導フォローを受け身で待たず自分から始めるというものが今の自分に大切なものであると感じました。今回の講義で学んだことを生かしてキャリアについて考えていきたいと思います。</p>	
<p>専門分野をより探求したいか、今まで得た知識などを実際に役立ててみたいと思う場合には就職するという考え方はとても参考になった。親戚に、博士課程を卒業すると就職は難しいと聞いたことがあったので、そのようなことはないと聞いて驚いた。求められる人材が時代の変化に伴って変化したのではないかと思う。</p>	
<p>新潟大学を卒業された先輩の話ということで、非常に参考になった。我が身のことのように話を聞いた。大学にいるうちには基礎能力を高めつつ、自分の専門分野を9割追究し、企業に出た時に役立つスキルにできればいいとおもった。</p>	

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今日の講義を聞き、キャリアはなんでも正解なんだと感じた。今まで、志望校に入れなかったり、学校をやめたくなったりした時に実際に辞めていたとしたらそれは人生キャリアの失敗のように考えていた。だが、本日、学業に専念しなくても、企業を辞めても、立ち止まらずに自分が前を向いて進んでいけばそれが自分のキャリアの正解になるような考えに変わった。何か課題が見つかったら、まず仮説を立てて検証、考察して解決するまで繰り返すことは大学院の研究生活でも行っている事なので、社会人になった時、これがどう自分が行動できるかあるいはできないか少しばかり楽しみな疑問である。そして、成長するには指示を待たず自分から動くことやめんどくさいことや大変な仕事を自ら引き受ける事が大切と学んだので、この講義を受けた以上、これからは自分を変えてつつも自分らしく頑張っていきたい。</p>	
<p>原理・原則を知ろうとすることの重要性を改めて確認することができました。日ごろから積極的に動くなど、自らの考えから変えていきたいと思えます。</p>	
<p>何が重要か考えて生活しようと思いました。</p>	
<p>講義を聞いたことでロジカル・シンキングの大切さを学ぶことができました。自分の使う技術の原理、原則を普段から考える癖を身に着けたいと思えます。また、博士課程の進学については研究室によってメリットとデメリットがあると感じています。私の研究室では博士課程に進学する学生が少なく、正直なところ同じ目線で議論できる人が身近にいる環境ではありません。自分にとって何を大切にしたいかを考えつつ、行動を選択していきたいと思えます。</p>	

第7回 技術と事業①_素材分野 (瀬戸様)_5月27日

修士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義を聞いて企業と大学などの研究におけるスタンス、求められる能力、期間、人数の違いについて理解を深めることができました。またこれらの説明において瀬戸様の自身の実務経験を通じた体験談により、一層の説得力を感じることができました。今回学んだことを参考にして自身の今後のキャリアプランを作っていきたいと考えています。</p>	

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>新潟大学の卒業生の先輩のお話ということもあり、非常に関心が高かったです。昭和電工という大きな会社で転職も経て大きな仕事をおこなっている話を聞いて夢があるなと感じました。博士課程で得られるチカラについても言及してくださったので、目的意識を持ちながら自分の研究に取り組みたいなと思いました。</p>	
<p>黒鉛電極の説明を見まして、やはり徹底的に最適化されているなという感想です。完成に至るまでの過程が非常に長いですが、無駄なくされているであろうことを見ると、当然ですが徹底した再現性があるのだと思います。これだけ高温に耐える製品を生み出すという点にとっても興味がわきました。</p>	
<p>特に前半部で挙げられていた大学での研究と企業での研究との相違点について説明がされており、目的と対象の範囲の違いや企業における技術開発が異分野の人と共同で行うこと、期限は市場が決めることなどが説明されていた。1点目と3点目については納得ができたが、2点目の異分野の人との共同研究に関しては現在の大学研究のトレンドと合致しているので、別段企業に限ったことではないのではないかと考える。一方、後半部では化学分野に関わる内容が大部分を占めていたが、黒鉛電極というあまり馴染みのないものについて学ぶことができ、有意義だったと思う。</p>	

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>キャリアデザインには、先生がおっしゃっていた「今、行っている研究が、何の役に立つか？」を考えることが必要だと思いました。一方で、研究分野によっては、研究が（社会）貢献することをイメージするのが難しいかもしれませんが、先輩の就職先や企業業務分野からイメージができると思いました。また、仮説検証のスキルが企業で役立つことが具体的に理解できました。講義の中で「昭和電工」の新潟での過去に触れられませんでした。過去の事実と事後の対応や現在に至る企業努力を社員が学生に直接伝えた方がよいと思いました。ネガティブな内容こそ伝えることが重要と考えます。理由は、ネットの中途半端な情報から企業の評価を実際よりも低く捉える可能性があります。社員のリアルな話しが、先生が企業の目的とされていた「顧客価値創出」、「問題解決」、そして今後の「就職応募者の増加」、「未来を担う人材の創出」につながるのではないのでしょうか。</p>	
<p>講師の方が新潟大学の博士出身で、今後のキャリアパスの一例として非常に参考になりました。自分と境遇に近いこともあり、アドバイスが非常にまとを得ていると感じました。大学で勉強する理論数学、物理が直接役立たなくても、その考え方や、学び方は社会に出ても役立つということが再認識できました。大学と企業の研究の違いは目的であり、自分のキャリアパスはその目的に合致する方を選んだ方がよいというアドバイスはためになりました。また、実際の企業での研究、開発活動について、具体的な例で説明されていて、非常にわかりやすかったです。最後の新入社員に話すアドバイスは、研究でも生きる話だと感じました。特に、24時間アイデアを考えよという話は、研究活動でも同様だなと思いました。</p>	

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>博士課程で研究していることは、修了後働くときに役に立つのだろうか？と感じてしまうときがあるが、今日の講義の中で「博士課程での研究は学問を究められるひとであるため、ほかの学問も究めらる人である」とおっしゃっていて、この博士課程の間で物事・学問を究められる能力をさらに伸ばしていきたいと強く感じた。</p>	
<p>企業における研究活動の自由度について、自身の予想とは異なっており、大変興味深く感じました。一般的に大衆に向けて行っている企業内での研究者は、アカデミア内での研究者と比較すると、社会貢献度の感じ方が、高いように感じました。自身にとってどちらの方が向いているのか、企業およびアカデミア内での研究活動の長所・短所を検討することで将来の道を選択する事ができるのだと思います。自身も医療関係者として医療行為を行う事を通じて地域社会への貢献をしている際と、研究活動を行っている時間と、どちらも経験出来ていることは大変貴重な経験であることを改めて感じました。</p>	

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>本日は興味深いご講義をありがとうございました。 正直最後の方のAAAやBBBのお話はちんぷんかんぷんだったのですが、日本品と比較して海外製品がなぜクラックが発生するか分析し、仮説をたて改良していく姿勢は企業努力の賜物だと感じ感動しました。また大学や企業における研究や技術開発について、相違点や類似点をわかりやすく教えて頂き、大学と企業の違いがよく分かりました。現在私は、大学で基礎研究を行っていますが、今後のキャリアを考えるうえで、大学で勤務を続けるか、企業に就職して研究をするかの選択をする助けになりました。普段自分が所属している組織とは異なる分野の先生のお話を聞くことができ、見識を広めることが出来ました。次回は、初心者向けにもう少し易しくかみ砕いて説明して下さると助かります。本日はありがとうございました。</p>	
<p>大学と企業の研究の違いについて考えさせられた。企業がよりスピード感やコストについて重点を置いていることは至極当然であると感じた。企業との共同研究を考えるうえで、企業に拾ってもらうためにも、この差異を念頭において、自らの研究をアピールしていく必要がある。</p>	
<p>大学と企業の違いが授業を通してわかりました。われわれが博士として10年ほど大学にいます。一度でも社会に出ることがないです。このような私たちは今後企業に入るなら、メリットは何ですか？</p>	<p>メリット、デメリットはどのようなキャリアを歩みたいかにもよります。例えば、企業は経験出来ること/会うことの出来る人の幅が広いという点も大きな違いですが、それをメリットと捉えるかどうかはその人次第です（私はメリットだと思っています）。</p>

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>今回の講義は今までで一番であった。博士で企業一筋の講師であったことは自分の目指すキャリアであり、企業と大学の比較は凄く分かりやすかった。大学が論文等に重点を置き、企業が製品等に重点があることが博士のキャリアを難しくしていると感じた。世の中に役立つ製品を開発することが工学系が求められているのに、理論研究が多めな現状の在り方も考えるいい機会になった。</p>	
<p>瀬戸講師の講義を受講し、昭和電工の技術と事業について学ぶことができ有意義な講義であった。内容は若干難しかったが、研究・技術開発について、大学と企業では目的が大きく異なること（知識創出と顧客価値創出）は新たな視点だった。今後、社会人生活においても先陣を切って物事を進めることができるよう、組織内での積極的な姿勢で臨みたい。</p>	
<p>私は専門性を身につけ、追い求めたいと思い博士後期課程へ進学したが、本日の講義を受けて自身の研究テーマの枠にとどまらず、具体的に最終的なゴールを持って研究していきたいと改めて感じる事ができた。アカデミアでは知識創出、企業においては顧客価値創出と、それぞれ異なる出口であるとのことであったが、自身の分野であるスポーツ科学ではそれらを跨いで研究していけると考えるため、学術的意義と社会的意義の両方を追い求める研究ができる力を、博士後期課程で身につけていきたい。しかし企業がもつスピード感やお客様に対してサービスを行う力など、自分にとって未知な部分は多い。したがって、現在希望するアカデミアでの研究の道を見つめるだけでなく、研究成果と社会とを直結させる方法を見つけるために、常に広い視点を持って物事に取り組み、考えていきたい。</p>	

第7回 技術と事業①_素材分野 (瀬戸様)_5月27日

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>博士人材に何が求められているのか、企業の考えを本講演を通して改めて理解しました。今年度から博士課程ですが、研究を通して専門性と課題解決力等磨くべきものをはっきりさせることができたのは大きいと思います。</p>	
<p>博士卒で企業へ就職を考えている私にとって、非常に有意義な講義でした。今はとにかく研究に打ち込み、PDCAサイクルを回すことに集中しようと思いました。さらには、昭和電工さんの黒鉛電極の詳しい事業内容や事業発展の実例も含めた貴重なお話もありがとうございました。</p>	
<p>現在勤められる会社がキャリアの最後ではないかもしれないと考えている発言に、チャレンジ精神の強さを感じました。社会貢献という点でいえば大学と会社のどちらで行うことは可能と考えているため (むしろ協力することを勧めていくべき)、将来どちらに行こうとも色々なことにチャレンジしていくことが大事だと改めて感じました。</p>	
<p>クリティカルシンキングという概念について初めて学びました。研究活動の中でついつい見失ってしまう、物事の本質を見抜くための論理的思考を鍛えていきたいと思います。</p>	

博士学生：質問／コメント	回答／コメント
<p>先生のお話をお聞きして、ステップアップのために、自分の力を試すために、今いる場所ではなく、卒業後は違う場所で挑戦してみたいと思いました。企業はお客さまに良いものが届けられたら、6割程度まで研究を行う、深掘りをやらないと仰っていましたが、大学も需要と利益を考えながら研究した方が良いのではないかと感じました。今色々な技術を手にしないと卒業後、使い物にならないと必死になってやっていたのですが、今行っている研究を全力でやって新しい場所に行ったらまたそこで学ぼうという姿勢が大切とお聞きすることができて、そこまで力を入れすぎないで楽しんで研究しようと思いました。教科書で学んでいたことが180度変わるということもあるように、クリティカルシンキングを活用しながら、研究を進めていきます。先生の講義をお聞きすることができて非常に勉強になりました。ありがとうございました。</p>	
<p>大学に残ることと企業へ就職すること、それぞれの特性について詳しく知ることができた。研究については目的、対象、体制、アウトカムが全て異なる。これはつまり大学と企業が共同研究を行うときに認識にズレが生じる主な原因でもあるのではないかと考えた。そもそも同じ「研究」を行いたい、と思っ ていても、目的も対象も異なるため同じ方向を目指しているようでプロセスの途中で齟齬が生じる。お互いが何を見ているのかを理解し、片方だけでは気づけなかった着眼点を面白いと思って取り込むことで分野が発展していくのではないかと思う。私も共同研究で気を付けようと思った。</p>	